

孫の養育者としての祖父母の姿 ——アメリカの「一世代スキップした家族」に着目して

間野 百子

(宇都宮共和大学子ども生活学部 教授)

1. はじめに——多様化する祖父母の役割

核家族化の進展にともない、祖父母と孫は年中行事などにもみ交流するケースが大半となってきた。子どもと高齢者は、それぞれの発達課題が相互に関わり合い（金田 2004）、互いに補完し合える関係にある（広井 2000）ため、同居の有無にかかわらず、祖父母と孫が交流することは、両世代に好ましい影響を及ぼす。実際に、祖父母800人を対象にした意識調査をみても、9割以上の祖父母は孫がいることに、はりあいや生きがいを感じている（北村 2008）。子ども（孫）の情緒面の発達にとっても、愛情を親身に注いだり、注意をしたりしてくれる親族が身近に存在していることは望ましい。孫と交流している際にみられるほほえましい祖父母の姿が現代社会における伝統的な祖父母像であり、「祖父母性（grandparenthood）」は、孫との関係においてのみ獲得できる特別な役割である。

一方で、祖父母と孫の関係は、長期化する不安定な経済・雇用情勢を受けて、多様化・複雑化しており、アメリカでは祖父母と孫が寝食をともにする形態の家族が増加傾向に転じている¹⁾。その一つが「多世代家族（multi-generational family）」の復興である。多世代家族では、三（四）世代の親族が生計を共にし、相互に依存しながら暮らしている。多世代家族の割合は1940年には24.7%だったが、1980年には12.1%にまで半減していた。その後少しずつ増加し始め、2010年には16.1%になっている。増加に転じてきた要因として、10代

での出産、シングルマザー、離婚など、生計を独立して維持することができない親の急増が指摘されている（Pew Research Center 2010）。

もう一つは、「一世代スキップした家族（skipped generation family）」の急増である。「一世代スキップした家族」とは、「孫は親不在の環境で生活をしており、祖父母が単独で孫の世話をしている」（Jooste, Hayslip and Smith 2008: 21）形態の家族を意味する。この世帯では、親が終日不在であるため、祖父母が孫の養育義務を全面的に担っている。2007年度の統計によると、18歳以下の孫と同居している祖父母は全米で620万人にのぼる。そのうち約40%に該当する250万人（祖母は約160万人）が孫の衣食住の面倒を単独でみている（U.S. Department of Commerce 2009）。

本稿ではまず家族形態の変容にともない孫を養育する祖父母が増加してきた社会的背景を概観する。次に、一世代スキップした家族の世帯主となる祖父母が孫の養育者としての役割を果たしていくうえでの特有の課題を明らかにし、祖父母を対象とする支援活動の展開について検討していく。

2. 祖父母役割と親役割の同時遂行

(1) 伝統的祖父母役割から再度の親役割へ

祖父母と孫が交流したり同居したりすることは、自然でほほえましいことである。経済的に恵まれた状況で孫と一時的・娯楽的な交流の機会を有する祖父母は、孫との触れ合いをとおして、心身ともにリニューアルでき、社会的つながりも広がり、

図表-1 孫を養育する祖父母の類型

			同居	日中の養育義務	親権
伝統的祖父母			×	×	×
孫を養育する 祖父母	デイ・タイム型		×	○	×
	フル・タイム型	孫と同居している 祖父母	○	○	×
		孫の親権を有する 祖父母	○	○	○

注: Jendrek (1993) をもとに作成

次世代を育むことへの自己肯定感を感じている (Weissbourd 2000)。

その一方で、アメリカでは、1980年代半ばから親族（大半は祖父母）に育てられる子どもが急激に増えており (Campbell and Miles 2008)、一世代スキップした家族特有の課題が顕在化している。祖父母が新たな形態の家族を形成するに至った主な原因は、親がみずからの問題行動により、子どもの養育義務を果たせなくなったことにある。親が子どもの養育義務を遂行できないほど深刻な問題行動には、薬物依存、HIV/AIDSへの感染、投獄、家庭内暴力、児童虐待、ネグレクト、離婚、失業などが該当する (Brabazon and Disch 1997)。さらに、孫を養育する祖父母が急増した要因として、多くの地方自治体が親族優先のフォスターケアを社会政策上掲げてきたことも指摘されている (Kelley 1993)。

親が死亡したり、養育放棄・不能に陥った結果、家庭に取り残されてしまう18歳以下の子どもは児童養護サービスの監視下に置かれる。各地方自治体は、まず親族による養育の可否を調査し、親族内に適切な養育者が見つからない場合に限り、里親を探したり、養護施設への入所を検討したりする。養育者候補の親族には祖父母を筆頭として、曾祖父母、叔(伯)父、叔(伯)母、兄弟姉妹、友人などが該当するが、実質的には祖父母が孫を引き取るケースが大半である。こうして、祖父母は親族ケア (kinship care) の主要な担い手として、子どもたちが里親制度や児童福祉施設などの社会的養護のもとで生育することを回避するセーフティネットとしての機能を果たしている (Campbell and Miles 2008)。

一世代スキップした家族が新たに形成された場合、祖父母は孫と同居し始めるだけでなく、親の代わりに孫の養育義務を全面的に担っていく。二度目の本格的な子育ては、最初の子育てとは質的に異なるうえに、孫への接し方も同居前の伝統的な祖父母のときとは変化せざるをえない。祖父母は伝統的な祖父母役割に加えて、親役割も同時に果たすことになり、複雑な役割に混乱や戸惑いを感じながら、新生活を始めることとなる。

(2) 孫を養育する祖父母の類型

孫を養育する祖父母は、孫との同居義務や法的な養育義務の有無により、図表-1の類型に分けられる。

ここでの「伝統的祖父母」は、孫とは別世帯で生計を営んでおり、孫のケアの一次的な提供者ではない。「孫を養育する祖父母 (grandparents raising grandchildren)」は、孫の養育義務があり、孫との同居義務の有無により「デイ・タイム型」と「フル・タイム型」に分けられる。デイ・タイム型は、両親が仕事などで不在になる日中だけ孫の面倒をみる義務を有するが、孫と同居はしていない。一方、フル・タイム型は、終日孫の面倒をみる義務がある。フル・タイム型は、さらに、孫と「同居している祖父母 (living with grandparents)」または孫の「親権を有する祖父母 (custodial grandparents)」に分けられる。孫と同居している祖父母とは、「終日、孫の面倒をみる義務があり、孫と同居している」ケースを意味し、親権を有する祖父母とは、「同居している祖父母」が担う責務に加えて、「親権を取得し、孫の養育・教育責任を法的にも担っている」ケー

スを意味する (Jendrek 1993)。

祖父母はそれぞれの類型に共通する課題を有している。たとえば、孫を養育する114名の祖父母を対象とした調査結果によると、祖父母が孫の親権を獲得することになった主たる原因は、親が薬物依存に陥っていたり、情緒面の問題を抱えていることなどである (Grant, Gordon and Cohen 1997) ため、祖父母の親に対する不信感は強い。他方、孫と同居している祖父母はインフォーマルな立場でありながら孫の主たる養育者でもあるゆえのストレスが多い。なぜなら、重要なことを決定する権利がないだけでなく、実の親が戻ったときに孫との関係を維持するうえでの法的な対抗手段もなく、曖昧な立場に置かれているからである (Jendrek 1994)。

いずれのタイプの祖父母もそれぞれに不安やストレスを抱えたまま、孫の養育に密接に関わっていく。大半の祖父母は、家族内の衝突や金銭上の問題を軽減するための具体的な助言、孫の発達面・精神衛生面における支援、祖父母による子育ての仕方など、さまざまな公的支援を必要としている (Grant, Gordon and Cohen 1997)。特に親権を有する祖父母は、精神的・経済的負担感が最も強い。なぜなら、祖父母は、親権者としての社会的な親役割も担い、「マルチプル・ロールズ (multiple roles)」を同時に使い分けねばならないうえに、孫の親が生存していたとしても、彼 (女) らとの関係は消滅するか疎遠になってしまうからである (Wohl, Lahner and Jooste 2003)。

3. 孫を養育する祖父母の特質

(1) 祖父母特有の課題

孫を養育する祖父母は、親族の代表として、孫の養育義務を果たそうと努めている。しかし、「二度目の子育て」という、新たな役割に適応・移行していくうえで、以下のような特有の課題に直面せざるをえない

第一に、祖父母自身のストレスや被差別感が増加し、心理・社会的に孤立しがちになる点である。祖父母は、親役割を獲得したことにより、人

生設計の変更を余儀なくされてしまう。祖父母たちに共通する否定的感情として、息子や娘に対する憤り、自分も誤った子育てをしてしまったのではないかという罪悪感、二度目の子育てに対する不安、自分たちの悩みを同世代の友人に理解してもらえないことから生じる疎外感、孫に対する憐憫の情などが報告されている (Strom and Strom 1993)。伝統的な祖父母役割を楽しみながら、日々の生活を営んでいる祖父母が、フル・タイムで孫を養育している祖父母の心情を理解することは難しい。したがって、孫を養育している祖父母は、同世代の友人とは疎遠になってしまう。さらに、孫を養育している祖父母は、伝統的な祖父母から不完全で無責任な子どもを育てた親という烙印を押されていると感じている (Wohl, Lahner and Jooste 2003)。

第二に、孫やその両親など、親族間の人間関係が複雑に変化してしまう点である。孫の養育義務は、唐突に発生する (「親の投獄、虐待やネグレクトにより子どもを親から引き離す」など) か、長期にわたる困難な期間 (エイズ、精神病、薬物依存による死亡など) を経て生じる (Hayslip 2003: 165) ため、祖父母には孫が親と暮らせなくなった状況を配慮したうえでの対応が求められる。なぜなら、親から虐待を受けたりネグレクトされたりした経験をもつ子どもは、情緒的に不安定だけでなく、学業面でもハンディを負っていることが多いし、親と死別している場合は、家族全体で死別にとまなう精神的衝撃を癒やしていくことも重要だからである。特に、親権を有する祖父母は、成人である実子や義理の子どもとの緊張関係が続くのみならず、代理の親になるうえでの法的手続きの煩雑さなどがストレス要因となる。親権を獲得するための裁判が必要な場合、法廷で実子が孫の養育者として不適格であることを訴えねばならず、祖父母の精神的負担はさらに増大する (Morrow-Kondos, Weber, Cooper and Hesser 1997)。

第三に、孫を引き取ることにより、祖父母世帯の経済的・精神的負担が増大するにもかかわらず、親族ケアに対する公的支援が不十分であることを

指摘できる。連邦政府は、社会政策上経済的であることや子どもの情緒面の安定に資するなどの理由から、親族が親不在の子どもの養育に携わること奨励している。しかし、その一方で、親族という私的領域内でのケアの授受に公的介入の必要はないとみなしてきたため、養育者である祖父母、ならびに被養育者である子どもに対する支援は、養父母の世帯と比べると十分ではない（GAP 2008）。特に、親権を有する祖父母（大半は祖母）は、絶望感や心理的苦痛のレベルが高く、不安定な健康状態、社会的孤立（同世代の人びととの交流ができなくなる）、経済的困窮、子どもの親との衝突、孫の問題行動、経済や法的課題などの重層的な問題に直面している（Hayslip 2003）。

(2) 「孫育て」の概念化

孫を養育する祖父母の増加により、「孫育て」にともなう祖父母と孫の複雑な世代間関係について論じられるようになった。ここでは、孫を養育する祖父母特有の心情を説明する概念について検討してみよう。

孫を養育する祖父母は多様性に富んだ集団となる。なぜなら、養育を引き受けた経緯、孫の状況（年齢や学業成績、精神状態など）、孫の実親や同世代の友人との人間関係など、置かれている状況がそれぞれ異なるからである。祖父母が孫の養育者という役割に順応していけるか否かは、孫育てというライフ・イベントを人生の好機と受け止めるか、あるいは厄介なこととしてみなすかにより、差が生まれてくる。したがって専門家が祖父母の多様性・個別性を認識したうえで個々の状況に応じた助言や支援を適切に行うために取り入れられているのがライフ・イベントを概念化する「ゲイン／ロス」のパースペクティブである。ここでの「ロス」とは、「すでに結びついていたか、結びつく予定であった何か（人との関わり、モノ）を獲得できなくなってしまうこと」を意味する。他方「ゲイン」とは、「ロスを埋め合わせる概念で、すでに結びついていたか、結びつく予定であった何か（奪われてしまうことが予想されるときでも）を獲得することができ、奪われてしまうことはない

という精神状態」を意味する（Servaty-Seib and Wilkins 2008: 185）。

親権を有する祖父母はそれぞれの立場をどのように受け止めているのだろうか。ゲイン／ロスのパースペクティブに基づいて考えてみよう。まず、「役割（role）」概念では、二度目の親役割をチャンスであると前向きに受け止める祖父母がいる一方で、大半は、伝統的祖父母の役割（ルールも少なく、孫を甘やかすこともできる）を奪われてしまったことへの喪失感を味わっている（Strom and Strom 2000）。

次に、「人との結びつき（relationships）」をみると、親権を有する祖父母は、孫との固いきずなを獲得できたことを歓迎している（Hayslip and Kaminski 2005）。一方で、孫の親や同世代の友人との結びつきが失われてしまうことも実感している（Sands and Goldberg-Glen 2000）。

このように同一のイベントであってもその受け止め方は多様で、その後の適応度にも大差が生じてしまう。ゲイン／ロスのパースペクティブを用いると、周囲の人びとが祖父母たちの感情の起伏を理解しながら、支援していくことが可能となる。すなわち、肯定的・否定的両面を含む多様な経験を有することへの認識が高まると、周囲の人びとの祖父母に対する否定的な見方が軽減され、祖父母がカウンセラーやサービス提供者から支援を受けやすくなるのである（Servaty-Seib and Wilkins 2008）。

4. 祖父母支援のネットワーク化

祖父母が孫を養育することは親族内の私的な人間関係であるため、祖父母特有の課題やその支援対策について公的に論じられることは少なかった。しかし、子育て支援が社会政策上の重要テーマとして論議されているように、孫育てに関する研究も進展し、独自の支援対策が講じられるようになってきた²⁾。以下では孫育てが公共的な課題として位置づけられ、祖父母を対象とした支援網がネットワーク化されてきた歴史的変遷について検討してみよう。

(1) 萌芽期——グループ活動の台頭

ここでの「萌芽期」とは、孫を養育している祖父母たちが孫育てにともなう葛藤（コンフリクト）を打ち明け、相互に励まし合うようになり、共通する問題点を公的にアピールし始めた時期として位置づける。私的レベルで個々に孫を養育していた祖父母たちは、1980年代後半になると、NPO 団体などのバックアップを受けるようになった。彼（女）らは、団結して親権を求めたり、政府からの支援を訴えたりするようになり、Grandparents Raising Grandchildren、Grandparents Reaching Out、Grandparents United for Children's Rights、Grandparents As Parentsなどのサポート・グループが創設され始めた（de Toledo and Brown 1995:259）。サポート・グループは、同質の課題を抱える当事者同士の相互学習・相互支援をとおして、問題を軽減・解決していくための自治的な活動である。

ここでは、そのうちの一つ、「祖父母の会（Grandparents As Parents、以下GAPと略記）」を例に、孫を養育している祖父母を対象とする活動が発展してきた経緯やグループワークの利点について考えてみよう。GAPは1987年に臨床心理士のトレド（de Toledo, S.）が草の根レベルで始めた活動である。トレドは、みずからの親が孫を養育するうえでハンディキャップを負っていることや十分な養育を受けないまま放置されている子どもたちを目の当たりにし、子どもの養育者同士で助け合える場を設けた。全米最大規模のNPO 団体、「全米退職者協会（American Association of Retired Persons=AARP）」³⁾の会員だったトレドは、その機関誌をとおして、祖父母や孫たちへの公的支援の必要性を提唱したり、孫の養育に個々に向き合っている祖父母たちに集会への参加を働きかけたりした。地域社会を基盤に展開されていたGAPへの参加者数は徐々に増大し、現在、その活動は、AARPの社会サービス活動の一翼として、全米44州ならびにコロンビア特別自治区で展開されている。GAPは子どもの養育義務を負う約1,000人（うち9割が実の祖父母）の人びとを対象として、週単位のグループワークの開催、年4

回のニュースレターの発刊などの支援活動を提供している（AARP GAP 2012）。

GAPの集会は、シニア・センター、教会、図書館などで行われ、数名から十数名の祖父母が集い、それぞれの心情を語り合っている。集会には、心理学者、ソーシャル・ワーカー、法律家、臨床心理士などが招かれ、参加者に個別具体的な助言がなされることもある。トレドはグループ活動の利点について、「グループは、困難な状況に個人レベルでは対処しきれないときに仲間と協力し合えるシェルターであり、孤立感の軽減に資する。グループは、生きた図書館でもある。似た境遇にいる仲間にも励まされたり手本を示してもらったりする。たとえば、15歳まで孫を育ててきた人の経験を、5歳の孫を育てはじめている人に活用することができるのである」と述べている（GAP 2008）。このようなグループ活動は、孫育ての経験年数や順応度が異なる祖父母たちの支え合いをとおして、それぞれの疎外感や被差別感を和らげ、祖父母が社会的に孤立してしまうことを防止・軽減する機能を有している。

(2) 発展期——支援網のネットワーク化

ここでの発展期とは、一世代スキップした家族に関する研究が進み、草の根レベルの支援活動の裾野が広がるなか、親族ケアに対する対策が社会政策にも反映され始めた時期として位置づける。1990年代に入ると、政府や基金の予算が、子どもの家族介護者に分配され始めた。2000年には「全国家族介護者支援プログラム（The National Family Caregiver Support Program）」⁴⁾が可決され、連邦政府が家族の介護者に初めて予算やサービスを配分するようになった（Musil, Warner, McNamara, Rokoff and Turek 2008: 103）。こうした社会的背景を受けて、支援網は以下の方向性で拡大していった。

支援網拡大の方向性の一つは、祖父母支援を目的とした、当事者団体、専門機関、研究機関のネットワーク化が「GU, Generations United（諸世代連合）」⁴⁾を中軸として進展した点である。まず、世代間関係の研究者が祖父母と協働して祖父

母と孫が直面する問題を世論に訴えつつ、公的援助を求めるようになった。こうした活動がAARPや「ブルックデール・ファンデーション (The Brookdale Foundation)」などからの資金援助に結びつき、1991年にカリフォルニア大学バークレー校 (The University of California-Berkeley) に孫を養育する祖父母の実態に即した支援網を拡大するための研究機関を設立するに至っている⁵⁾。

二つ目の方向性は、養育者本人への支援体制の重層化である。AARPはGUと協働で1993年に孫の養育をしている祖父母を対象とした「祖父母のための情報センター (GIC, Grandparents Information Center)」を創設した。GICは、祖父母が直面するさまざまな課題に対処するために、広範囲にわたるサービス (集会場所の提供、専門家による法的手続き、訴訟関連の指導、生計管理に関する個別指導、孫や親、さらには、立場の異なる同世代の人びととの対人関係に関するカウンセリングなど) を提供している (AARP GIC 2011; 間野 2009)。現在では祖父母や孫に固有の重要課題やストレスに対処していくために、心理学者やメンタルヘルスの専門家による家族療法、カウンセリング、祖父母を対象とした親教育なども展開されている (Jooste, Hayslip and Smith 2008)。

このようにして、AARPやGUなどの国家レベルの団体が一世代スキップした家族特有の課題に取り組みながら、政策提言に結びつけ、支援網がネットワーク化されたことの意味は大きい。

5. おわりに——今後の課題に代えて

日本でも娘や息子の子育てを間接的に支援している祖父母の意識調査は進められている。そこでは、祖父母の子育て支援力が社会的資源として位置づけられ、子育て中の親にとって祖父母からの支援が貴重な支援源であることが明らかにされている (北村 2008)。その一方で、不在の親の代役として孫の発達に直接的・全面的に関与している祖父母の実態や彼 (女) らに対する支援のあり方は十分に論議されていない。その理由として、一

世代スキップした家族に対する社会的偏見や差別が残るなか、祖父母の大半は私的レベルで孫を養育しているため、祖父母や孫の課題やニーズが社会的にアピールされていないことを指摘できる。

長引く経済不況の影響を受けて、子育て中の成人世代の生活基盤は盤石とはいえない。親世代の不安定な雇用形態、子どもへの虐待、子どもの貧困率の増加など、親子関係においても子どもの健全な発達に悪影響を及ぼす課題が山積している。少子・高齢社会を迎え、親族を主体とする私的ケアの授受が難しくなるなか、孫を養育する祖父母はケアの与え手としての社会的役割を果たしている。

今回検討したアメリカの事例は、孫を養育する祖父母の増加現象、共有課題の顕在化、研究テーマとしての位置づけ、祖父母同士の草の根レベルの相互支援活動の発展、各種NPO団体によるサポート体制のネットワーク化、公共政策への提言など、一世代スキップした家族が抱える典型的な課題が私的な家族問題から公共課題としてとらえられていく一連のプロセスを示しており、祖父母の子育て支援のあり方を論議していくうえで示唆的である。

本稿で明らかにしてきたように、祖父母という集団は、孫との関わりの程度、家族内における役割などがそれぞれ異なり、多様性に富んでいる。彼 (女) ら特有の祖父母性を家庭や地域社会で再活用できる体制を整えるとともに、孫を養育している祖父母も視野に入れた子育て支援のあり方について検討していく必要がある。なぜなら、子育て支援には、子育て中の親のみならず、子育て困難を抱えている親を支援している祖父母、親不在の孫を養育している祖父母も含まれ、それぞれのニーズに適した重層的な対策を講ずる時期が到来しているからである。

注

- 1) 家族形態にはエスニシティや人種による差異も生じている。「2000年のデータによると、祖父母が世帯主である家庭で暮らしている白人の子どもは4.2%であるのに対して、アフリカ系アメリカ人の子どもは13.2%にのぼる」(Campbell and Miles 2008: 115)。
- 2) たとえば、高齢者と子ども・若者の相互交流を意図的に創出することを目的として、1960年代半ば以降、組

- 織的・体系的に展開されている「世代間交流プログラム (Intergenerational Program)」の研究者たちは、1980年代半ば以降になると、祖父母と孫の関係も重要な世代間交流のテーマとして位置づけ、孫を養育する祖父母に関する特集を組むようになった (Brabazon and Disch 1997)。
- 3) AARPは、1958年に創設された全米最大規模の非営利団体である。創設時は高齢世代に有利な社会政策の実現に重点を置いていたが、1990年代以降は、若年世代の発達支援活動や家族関係の研究にも携わっている (<http://www.aarp.org>)。
- 4) GUは1986年に「全米高齢者問題協議会 (National Council on Aging)」ならびに「全米児童福祉連盟 (Child Welfare League of America)」など、100を超える団体が連合して創設した非営利団体で、すべての世代の人びとの生活の質を改善するための政策提言を行っている (<http://www2.gu.org/OURWORK/PublicPolicy/PolicyImpact.aspx>)。
- 5) ブロックデール・ファンデーションは1950年にニューヨーク州に創設された。当初は高等教育機関の進学者への奨学金制度の発展に尽力してきたが、老年学の研究にも力を入れるようになり、1990年代からは孫を養育する祖父母の支援活動にAARPやGUと協働で携わっている (<http://www.brookdalefoundation.org/aboutus.html>)。
- 文献**
- 金田利子, 2004, 『生活主体発達論——生涯発達のパラドックス』三学出版。
- 北村安樹子, 2008, 「子育て世代のワーク・ライフ・バランスと“祖父母力”——祖父母による子育て支援の実態と祖父母の意識」『ライフデザインレポート』185: 16-27。
- 広井良典編, 2000, 『「老人と子ども」統合ケア——新しい高齢者ケアの姿を求めて』中央法規。
- 間野百子, 2009, 「成人教育におけるセルフ・ヘルプ活動の役割——米国の『祖父母の会』に着目して」『アメリカ教育学会紀要』20: 58-69。
- AARP, GAP, <http://www.grandparentsasparents.org> (2012年11月1日取得)。
- AARP, GIC (Grandparents Information Center), <http://www.aarp.org/families/grand-parents/gic> (2012年11月1日取得)。
- Brabazon, K. and R. Disch eds., 1997, *Intergenerational Approaches in Aging: Implications for Education, Policy and Practice*, New York and London: The Haworth Press.
- Campbell, L. and M. S. Miles, 2008, "Implementing Parenting Programs for Custodial Grandparents" (Hayslip and Kaminski eds. 2008: 115-130)。
- de Toledo, S. and D. E. Brown, 1995, *Grandparents as Parents: A Survival Guide for Raising a Second Family*, New York and London: The Guilford Press.
- GAP (Grandparents As Parents) 2008, *GAP Newsletter: Filling the Gap*, 7 (2)。
- Grant, R., G. S. Gordon, and S. T. Cohen, 1997, "An Innovative School-Based Intergenerational Model to Serve Grandparent Caregivers" (Brabazon and Disch eds. 1997: 47-61)。
- Hayslip, B., 2003, "The Impact of a Psychosocial Intervention on Parental Efficacy, Grandchild Relationship Quality, and Well-Being among Grandparents Raising Grandchildren," B. Hayslip and J. H. Patrick eds., *Working with Custodial Grandparents*, New York: Springer, 163-176.
- Hayslip, B. and P. Kaminski, 2005, "Grandparents Raising Their Grandchildren: A Review of the Literature and Suggestions for Practice," *The Gerontologist*, 45 (2) : 262-269.
- Hayslip, B. and P. Kaminski eds., 2008, *Parenting the Custodial Grandchild: Implications for Clinical Practice*, New York: Springer.
- Jendrek, M. P., 1993, "Grandparents Who Parent Their Grandchildren: Effects on Life-style," *Journal of Marriage and the Family*, 55: 609-621.
- , 1994, "Grandparents Who Parent Their Grandchildren: Circumstances and Decisions," *Gerontologist*, 34 (2) : 206-216.
- Jooste, J. L., B. Hayslip and G. C. Smith, 2008, "The Adjustment of Children and Grandparent Caregivers in Grandparent-Headed Families" (Hayslip and Kaminski eds. 2008: 17-39)。
- Kelly, S., 1993, "Caregiver Stress in Grandparents Raising Grandchildren," *Journal of Nursing Scholarship*, 25 (4) : 331-337.
- Morrow-Kondos, D., J. A. Weber, K. Cooper, and J. L. Hesser, 1997, "Becoming Parents Again: Grandparents Raising Grandchildren" (Brabazon and Disch eds. 1997: 35-46)。
- Musil, C. M., C. B. Warner, M. McNamara, S. Rokoff, and D. Turek, 2008, "Parenting Concerns of Grandparents Raising Grandchildren: An Insider's Picture" (Hayslip and Kaminski eds. 2008: 101-114)。
- Pew Research Center, 2010, "The Return of the Multi-Generational Family Household," A Social & Demographic Trends Report, Pew Research Center.
- Sands, R. G. and R. S. Goldberg-Glen, 2000, "Grandparent Caregivers' Perception of the Stress of Surrogate Parenting," *Journal of Social Service Research*, 26 (3) : 77-95.
- Servaty-Seib, H. L. and M. A. Wilkins, 2008, "Examining the Losses and Gains Experienced by Grandparents Raising Grandchildren: A Practical Framework for Assessment and Intervention" (Hayslip and Kaminski eds. 2008:

- 181-196) .
- Strom, R. D. and S. K. Strom, 1993, "Grandparents Raising Grandchildren: Goals and Support Groups," *Educational Gerontology*, 19 (8) : 705-715.
- , 2000, "Meeting the Challenge of Raising Grandchildren," *International Journal of Aging and Human Development*, 51 (3) : 183-198.
- U. S. Department of Commerce, 2009, "Facts for Features," *U.S. Census Bureau News*.
- Weissbourd, B., 2000, "There Will Always Be Lullabies: Enduring Connections between Grandparents and Young Children," *Zero to Three Journal*, 16.
- Wohl, E. C., J. M. Lahner, and J. Jooste, 2003, "Group Processes among Grandparents Raising Grandchildren" (Hayslip and Kaminski eds. 2008: 195-211) .

まの・ももこ 宇都宮共和大学子ども生活学部 教授。
主な著書に『世代間交流学の創造——無縁社会から多
世代間交流型社会の実現のために』（共編著、あけび書
房、2010）。生涯学習論・社会教育学専攻。